式　　辞

冬の寒さも日増しに和らぎ春の息吹が感じられる今日の佳き日に、大阪府立四條畷高等学校第74回卒業証書授与式を挙行できますことは、教職員一同この上もない喜びであります。

ＰＴＡ会長松浦様をはじめ、ご来賓のＰＴＡ役員の皆様には、ご多用中にもかかわらずご臨席を賜り、厚くお礼申し上げます。

保護者の皆様、お子さまのご卒業、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。この３年間、様々なご苦労があったことと拝察いたします。お子様を支え、育まれてきたことに対しまして敬意を表するとともに、これまで本校の教育活動にご協力、ご支援いただきましたことに心より感謝申し上げます。

さて、ただ今、卒業証書を授与しました356名の74期生の皆さん、卒業おめでとうございます。

２年前、私が本校に赴任し、皆さんの姿を初めて見たのは、５月15日でした。本来ならば、４月から始まる新学年は、その年の３月からの全国一斉休校の影響で、午前と午後に分かれての分散登校という形でスタートしました。そして、全員そろっての授業が再開できたのは、さらに１か月後の６月12日でした。私には、この期間がとても長く感じられました。先行きが不透明な中で、これから先どのように学校を運営していくのか大きな不安を抱えていました。そんな時、私の背中を押してくれたのは皆さんでした。皆さんが毎朝マスク越しに挨拶してくれる元気な声、授業中の真剣な眼差し、部活動に楽しそうに励む姿が、私に、そして先生方に勇気を与えてくれました。授業だけでなく行事や部活動で切磋琢磨して成長する、コロナ禍であってもそんな畷高であり続けたいという思いを強くさせてくれました。そして、その年の10月、感染不安がある中で、皆さんと行った沖縄への修学旅行は今でも強く印象に残っています。朝晩の体温チェック、バスの乗降時の手指消毒、ビニール手袋をしての食事の受け渡しなど、とても制約の多い４日間でした。しかし、レクレーションやマリンスポーツ、タクシープランなどで、皆さんのはじけるような笑顔を見て、沖縄に来てよかった、修学旅行ができてよかったと心底思ったことを

思い出します。また、今年度の畷高祭での大劇場では、マスクを着用しての演技だったにもかかわらず、緞帳が下りるたびに観衆から漏れたどよめきや感嘆の声、皆さんの思いの一杯詰まった熱演が観ている私たちに多くの感動を与えてくれました。

皆さんは、高校生活の後半２年間をコロナ禍の様々な制約の中で過ごしてきました。ずいぶん辛かったと思います。しかし、その中で、皆さんは、授業はもちろん、部活動や行事、課題研究などを通して自分を鍛え、多様で優秀な同級生、先輩、後輩と個性をぶつけ合い、高め合ってきました。「今できることを大切にして、全力を尽くす。そして、精一杯楽しむ」、そんな 74 期生の姿勢は、畷高の新たな伝統として後輩へとしっかり受け継がれました。コロナ禍の様々な制約の中で逆境を乗り越え、本日卒業を迎えた皆さんに改めて大きな拍手を送りたいと思います。

さて、４月から民法上の成年年齢が十八歳に引き下げられ、皆さんは４月から成年となります。私は 20 歳の時、「将来高校の教師になる」と強く願いました。皆さんは 10 年後の自分、20 年後の自分を思い描いたことがありますか？

現在、世界は、新型コロナウイルスのパンデミック、貧困や気候変動、ジェンダー平等、そして戦争など、予測が困難な多くの課題に直面しています。そうしたなかで、長い人生において幸福感を持ち、充実した日々を送るために必要なことは何でしょうか？

近年、ビジネスやスポーツ、教育界などで注目されている力に「ＧＲＩＴ」があります。「ＧＲＩＴ」は、アメリカの心理学者アンジェラ・ダックワース教授が提唱した概念で、困難なことに立ち向かう Guts、失敗しても諦めずに続ける Resilience、自分で目標を定め取り組む Initiative、最後までやり遂げる Tenacity の頭文字をとったものといわれ、日本では「やり抜く力」という意味で使われています。ダックワース教授は、人生で成功するのに大切なのは才能よりも「ＧＲＩＴ（やり抜く力）」であると主張しています。

ダックワース教授の著書『ＧＲＩＴ』には、ぜひ皆さんに聴いてほしい一節があるので、紹介します。

「人は誰でも限界に直面する。才能だけでなく、機会の面でもだ。しかし、

実際には、私たちが思っている以上に、自分で勝手に無理だと思い込んでいる場合が多い。何かをやって失敗すると、これが自分の能力の限界なのだと思い込んでしまう。あるいは、ほんの少しやっただけでやめてしまい、他のことに手を出す。どちらのケースも、もう少し粘り強く頑張ればできたかもしれないのだ。

『お前は天才じゃないんだ。』子どものころ、いつも父にそう言われた。天才という言葉を、努力もせずに偉業を成し遂げることと定義するなら、私は天才ではない。しかし、天才とは、自分の全存在をかけて、たゆまぬ努力によって卓越性を究めることと定義するなら、私も天才だ。そして、あなたにも同じ覚悟があれば、あなたも天才なのだ。」

皆さん、社会に出れば、短期的な成果を期待され、無理して踏ん張らないといけないときもあるでしょう。しかし、本当のゴールはずっと先にあります。大切なのは継続です。情熱を持ち続け、粘り強く、やり抜いてください。皆さんには無限の可能性があります。自分の「ＧＲＩＴ（やり抜く力）」を信じてください。

しかし、それでも、今後の人生でつらくてどうしようもなくなった時は、少し立ち止まって畷高での３年間を思い出してください。そこには温かく見守ってくださったご家族をはじめ、時には厳しく、時には優しく接してくださった先生方、ともに喜び、ともに涙した仲間など、多くの人たちの励ましや支えがあったはずです。そのことを思い出してください。これからも皆さんが全力で頑張っている姿は必ず誰かが見守ってくれています。そして、私たち畷高の教職員はこれからもずっと皆さんの応援団です。74期生の皆さん、どうか自分らしさを大切にしながら、幸せな人生を切り拓いていってください。

結びに、皆さんの前途が健康で幸多きものでありますことを心からお祈りして、式辞といたします。

令和４年３月１日

大阪府立四條畷高等学校長　稲葉　剛